



日野郡で行われている移動式スーパールの記事を見ました。過疎地域では、人口が減って店の維持が困難になる中で、大切なライフラインだと思います。このような活動に行政も連携して、サポートをして欲しいですね。

(鳥取県倉吉市 足羽 佑太)

鳥取県に住むようになり、はや5年。どんな特産品があるか、いまだ興味は尽きません。105号巻頭特集でパイ貝のことを、初めて知りました。三朝神倉大豆の豆腐はよく買っていて、大豆の風味が濃くとても美味しいです。また、特集の記事では、日頃から周辺の竹やぶの荒廃が気になっていましたので、この取り組みに感じました。このような活動が広がればと願っています。

(鳥取県湯梨浜町 西村 悦子)

巻頭特集にあった「エキナセア」は、以前に自分の畑で作ったことがありました。もう一度栽培してみようかと思いましたが、まずは、娘が花粉症なのでハーブティーを購入して、試飲してみようかと考えています。「鳥取地どりピヨ」は品質が良さそうで、県内外にもっとPRできればいいですね。特集の「ニヨキッとビジネス」は、自然を相手にしたビジネスで面白いと思いました。掲載されていた写真もよかったです。

(鳥取県米子市 敷田 正義)

いつも鳥取の情報を楽しく読ませていただいております。105号の巻頭特集の扉のイラストが素晴らしい、感動しました。月1回は鳥取に遊びに行っています。

(岡山県岡山市 正本 慎一)



介護の現場の「あったらいいな」を形にする会社がある。
株式会社「ニシウラ」は、先代が営んでいた建設業から
社会福祉事業に転換した。
その時、多くの人のサポートを得て
倒産の危機を脱した経験が、
人を大切にする今の仕事につながっている。



お年寄りのベッドの乗降などに
重宝されている「足の裏ささえ隊」

苦境越え、やさしさの福祉展開



「商品の性能はもちろんのこと、ユニークなネーミングや親しみのあるデザインにこだわっています」と西浦さん

「どん底、まさに地獄の日々でした」。西浦伸忠さんは、代表取締役として就任した2006年当時をこう振り返る。

同社の創業は1997年。公共事業中心での潤いに疑いを持たなかった建設業の「黄金時代」だ。しかし、時の政権の構造改革によって状況は一変、2001年以降、発注は激減した。生き残り策として同社は、福祉事業分野に参入。介護リフトを皮切りに、介護用品の販売レンタルも始めた。

その後も公共事業が増える兆しは見えてこず、西浦さんは初代の父から会社を引き継ぐと同時に、福祉事業一本に絞ると宣言。しかし、建設業での長期不振が響き、経営はす

に火の車。倒産の危機は目前に迫っていた。大型重機を全て売るなどしてしのぐも、綱渡りの資金繰りは続く。それでも恩師や知恵を貸してくれた知人など、人と運に支えられ、3年間で「奇跡的に乗り切った」という。

その間にもさらなる展開を模索し続け、自身も県内初の「おむつフィットター（※）1級」を取得。そして、おむつフィットターとして講演した学会で、鳥取大学医学部の准教授との縁ができた。取引先の大王製紙にも協力を仰ぎ、3者連携で画期的な漏れにくいオムツを開発、商品化につながったのだ（2014年）。これは「中小零細企業でも発想と連携でビッグなことができる」と、大きな自信につながったという。

このほか、介護の現場の声を元にオリジナル製品を開発。車椅子用のクッションやテーブル、足置きなど、いずれも手頃な価格なのに、使う人の視点に立った細やかな工夫が施されている。

利用者や介護者の「喜ぶ顔がやりがい」という西浦さん。3年ほど前によくやく建設業の頃の売り上げに達した。「人との出会いに恵まれた。



肘がしっかり置けるため、誤嚥防止や身体負担軽減につながる「ヨッコイショテーブル」

株式会社 ニシウラ

代表取締役 西浦 伸忠
設立/1977年
資本金/4300万円
本社 社/鳥取市河原町佐貫1093-8
松江事務所/松江学園2-26-27
☎0858-85-0601
🌐http://nishiura.jp/

変化して対応できなければ先がない。試練が大きくなっていく。ニシウラには、苦境を乗り越えたからこそつかめる、強さとやさしさ
が備わっている。

文/井田裕子

※おむつフィットターオムツの漏れなどの相談に商品の選び方や当て方など幅広い知識でアドバイスする民間資格

とっとりNOWは、今回初めて読みました。鳥取県に行ったことがなかったのでも、これまでに有名な観光地ぐらいいしか知りませんでした。こだわりの地どりや豆腐、パイ貝など食べて見たいものがたくさんありますね。「うま味」に掲載されていたフレンチレストランにも行ってみたい。美味しい物を求め、鳥取へ旅してみたいですね。

(大阪府茨木市 白濱 みつえ)

自身が花粉症で困っているの、予防医学に期待大のエキナセアハーブティーは、特に興味深かったですね。鳥取発信の良品や情報、いいですね。これからも応援しています。

(岡山県倉敷市 植田 知里)

いつも楽しく拝読させていただいています。タケノコの特集があったセンタースクールファームは、同じ町内です。今後もっと地産地消が進んでいくといいなと思っています。

(鳥取県湯梨浜町 岸田 理作)

鳥取地どりピヨが飼育されている鹿野町に実家があり、改めて鳥のルーツが分かって興味深かったです。一度食べたことがあり、しっかりと歯ごたえと甘みが特徴的でした。また、智頭町で麻を作るプロジェクトに、以前から興味を持っていましたが、中心的人物がターゲットの方だと知らなかつた。鳥取の魅力に気付いてくれて嬉しいですね。多くの若い人たちが鳥取の素晴らしさを知って移住し、活性化につながればいいですね。

(鳥取県米子市 古田 玲子)

「良い酔いほし酒」。面白かったです。一度、酒造見学にも行ってみたいですね。きつと美味しい郷土料理にも出会えるんでしょうね。

(岡山県倉敷市 植田 敏弘)



鳥取県人会り紹介



時代背景の変化や高齢化などで会員数の減少に心を痛めていますが、その分和気あいあいとした雰囲気魅力です。月に1度の同好会は気軽に参加しやすいので、ぜひ来てみてください。

会長 森原 日出夫

▽伊丹鳥取県人会概要

設立/1982年
会員数/38名(2014年4月現在)
会費/年会費1,000円
入会方法/事務局へ連絡

▽問

伊丹鳥取県人会事務局
〒665-0814
兵庫県宝塚市山本野里2-15-3
谷口 健
☎0797-89-2477

当会は、伊丹市をはじめ近隣に在住している鳥取県出身者を中心に構成されています。設立当初は伊丹市在住者が対象でしたが、より多くの方に参加していただくため、2005年に「伊丹市鳥取県人会」から現在の名称に変更。今では鳥取県に縁のある、また魅力を感じている会員が集まり、楽しく活動しています。

設立から30年以上が経ち、歴史を重ねてきました。主な活動は、4月の総会を皮切りに、9月は市内の公園で「観月会」、10月は温泉地で「1泊懇親会」、1月は「新年互礼会」と少人数ですが、大いに楽しんでいます。

また毎月第2金曜日は「きんさい会」と称した同好会も開催。懐かしい鳥取弁でおしゃべりをし、食べて飲んでカラオケも歌うなど、賑やかな時間を過ごしています。



毎年春の定期総会で絆を深める会員たち